



お母さんから生まれたのに、血液型がちがうのはなぜ

お母さんの血は、赤ちゃんの体に流れていかない

おなかの中の赤ちゃん（胎児）は、「へそのお」で、お母さんにつながっています。へそのおの中には、「さい動脈」と「さい静脈」という血管があり、その中を流れている血液を通して、赤ちゃんに必要な酸素や栄養は、お母さんから送られ、赤ちゃんのいらなくなったものは、お母さんにわたされて、お母さんが捨ててくれているのです。

しかし、だからといって、お母さんの血が、「へそのお」を通して、赤ちゃんの体に流れていっているわけではありません。ですから、お母さんの血液型と、赤ちゃんの血液型とがちがっていることは、よくあることなのです。

赤ちゃんは、自分の血液を、自分でつくっている

おなかの中の赤ちゃん（胎児）は、自分の血液は、自分の体の中でつくっています。そして、赤ちゃんの「へそのお」の中の血管は、お母さんのおなかの中にある、「たいばん」につながっています。「たいばん」には、お母さんの血管もまわっていますが、赤ちゃんの血管とは、つながっていません。

しかし、「たいばん」の中で、赤ちゃんの血液は、お母さんの血液から、自分の体に必要な酸素や栄養などをもらい、自分のいらなくなったものを、お母さんの血液へわたしているのです。ですから、お母さんの血が、そのまま、赤ちゃんの体に流れているのではないのです。（監修・保志 宏）

